

2016年度小教区評議会役員交流会報告

■テーマ：共同宣教司牧-小教区共同体の活性化

■目的：新しい人を迎えるために私たちに何ができるかを考える。

■対象：ブロック担当司祭、協力司祭、宣教司牧協力者、小教区評議会役員

■日時：2016年10月1日（土） 10：30～15：30

■場所：カトリック河原町教会ヴィリオンホール

■参加人数：信徒57名、司祭2名、修道者1名

■内容

午前中：

講話（大塚喜直司教）：

まずはじめに、小教区評議会役員研修についての方針を提示した。昨年から年2回の「役員研修会」（春）と「役員交流会」（秋）の形式で実施しているが、さらに研修テーマの周期化を行い、3年周期で3つのテーマ（教会と福音宣教の理解、教会共同体づくり、社会への福音宣教）を扱うことを確認した。

現在小教区では様々な理由から集まる人が少なくなっているという現状を振り返り、事前に行っていた小教区へのアンケート結果を取り上げ、小教区ですで行われているグループ活動を紹介した。さらに共同体の活性化を考える午後の分ち合いのために、共同宣教司牧の基本としての信仰共同体の必要性やその共同体を支える小教区評議会の役割などについて改めて確認し、現状を打開するためにできることを考える手がかりを示した。

体験発表①（丹後教会信徒）：

教会での具体的な経験を中心に、「共同体の活性化」につながっていると思うポイントについて指摘した。大切なことは、一人一人が「自分は受け入れられている」と感じられること、そのために「誰でもいつでも welcome」という雰囲気作りをすることである。集まりに来てくれた人がいたら、「来てくれてうれしい」や一緒にしてくれたことに対して「ありがとう」と口に出して相手に伝えることがそのようなことにつながるということであった。それは日本人、外国人、小教区所属の信徒、初めて教会に来た人関係なくである。また、小教区共同体のメンバーを「家族」だと思い、いろいろな人がいることを受け止めること、相手に対する心配りをする、すみずみまで連絡をすることなどを挙げた。

体験発表②（高野教会信徒）：

まず小教区の信徒の集いについて紹介され、その集いにおける課題も提示した。そして小教区の印象がこの何年かで変わった（良くなった）ことについて、その要因は「ミサが生きてきた」ことにあると指摘した。真剣に祈り、語られるみことばを聞いて自分の生活の中にくみ取っていきこうという動きになってきたということである。

共同体の活性化に向けて、教会共同体と評議会制について正しく理解することが必要であり、教会共同体に重きを置き、評議会の良さや限界を認識し、自由に話せる場などの足りない部分を補うことが必要ではないか。また個人の内面の充実が必要であり、そのためには司牧者の良い指導を受け、一人一人が神様から愛されている実感を持ち、ありのままの自分のことを愛することが大切だと指摘した。

午後：

小グループでの意見交換：

午前の司教講話、二人の信徒による体験発表を受けて、以下の 3 つのポイントをふまえながら、具体的にできそうなことを小グループに分かれて分かち合いをした。

- ①ミサには来るがそれ以上教会に来ない信徒が集まる場として、どのようなものが考えられるか。
- ②しばらく教会から離れている人に、どのように声をかけ、また教会生活を初めてもらえるか。
- ③初めて教会に来た人や新信者が、教会共同体の活動や交流に参加する方法を考える。

意見交換発表より抜粋：

- ・家族の中で自分だけが信者の場合、亡くなった後の葬儀のことが心配なので司祭に協力してもらい勉強会をした。葬儀や結婚などの人生の節目が教会に戻って来てもらうチャンスになりうるので、積極的に働きかけていきたいと思う。
- ・外国人の信徒が多いので、日本在住の外国人の信徒に役員に入ってもらい窓口になってもらっている。
- ・外国人の信徒たちは生活の中に信仰を根付いているので、彼らとの関わり、一緒に活動することを通して教会共同体が活性化されると思う。
- ・教会を初めて訪れる人や外国人観光客に対応するため、電話応答のために教会に信徒が常駐したり、茶菓を用意して迎えたところ大変喜ばれた。
- ・今後若い世代に評議会役員になってもらうためにも、評議会での雰囲気作りを配慮したら良いと思う。

まとめ（一場修神父）：

さまざまな活動の中で、なにが一番大切なのかはいつも見失いやすく、つい目先のことをこなすようになりがちであることに触れ、教会共同体とはなにか、現状維持ではなく、なにかもう一歩進もうというそれぞれの気づきがあったこと、そしてそれを持ち帰ってまた小教区で分かち合ってほしいと振り返った。また評議会は教会で起こっている良いことを発見する場であり、抑えたり管理する場ではないということをはっきりと認識し、教会での聖霊の働きを発見する場にするための大切さについて話した。

福音宣教企画室の振り返り

教会共同体の活性化を考えるにあたり、共同宣教司牧の基本である信仰共同体の必要性について改めて学び、実際の小教区の現場からの実践や経験から、それぞれの小教区で具体的に取組もうとするきっかけを提供できた。さまざまなブロックの役員が意見を交換する場は少ないので、活発な意見交換が行われ、他の小教区から学び、共感し、実践への手がかりを得る場となった。今後も各小教区での活動状況などにつねにアンテナを張り、役員研修会（交流会）の内容を充実させていきたい。

2016年10月17日作成

福音宣教企画室